

侍者社

田裳見宿禰は住吉大社の初代社主である。後に住吉三神と呼ばれるようになった三神の姿を見た神功皇后から、3世紀初頭に最初の社殿の造営を託された。

侍者社は、田裳見宿禰とその妻である市姫命が神々とお互いへ献身したことを表した小さな社である。住吉三神と神功皇后にお供えする神饌を準備するための建物の中にある。侍者とは、「従者」の意味であり、田裳見宿禰が神に仕える者であったことを表している。

現在、侍者社には、縁結びや夫婦円満を求める人が訪れる。参拝者は、小さな木製の絵馬を購入し、祈りや恋の願いを書いて神社の外に吊るすことで、田裳見宿禰と市姫命が叶えてくれるという。住吉大社では、侍者社にゆかりのある2種類の土人形のお守りを販売している。一つは、裸の男女が抱き合っている裸雛である。裸雛は何の秘密も持たない理想的な夫婦関係を表しているとされている。もう一つは、侍者人形と呼ばれるもので、古典的な衣装を着た夫婦が描かれている。夫婦円満の意味がある。